

評価会議（平成28年度期末）における委員の評価及び意見

1 取組実績の評価（1）：事業の実施状況

| 評価点 (配点 25 点) | A 委員 | B 委員 | C 委員 |
|------------------|------|------|------|
| | 1 8 | 2 0 | 2 0 |

主な意見等

- ・色々、やっているが参加者が少ない催しもある。少ないのがダメということではなく、催しごとにターゲットと目標人数、到達点を事前に検討し、PDCAを回しながら改善していってほしい。
- ・自律的な運営が徐々に行われるようになっている。地区ごとの分析も一定丁寧になされている。

2 取組実績の評価（2）：事業の実施体制等

| 評価点 (配点 15 点) | A 委員 | B 委員 | C 委員 |
|------------------|------|------|------|
| | 7 | 1 3 | 1 3 |

主な意見等

- ・新任の支援員1人で現場に出るのは無理があったと思われる。地域毎に担当者を固定するのではなく、副担当制やテーマ別担当などの柔軟な対応を求めたい。(区の仕様書も工夫されたい)

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）に関する評価

| 評価点 (配点 20 点) | A 委員 | B 委員 | C 委員 |
|------------------|------|------|------|
| | 1 3 | 1 6 | 1 5 |

主な意見等

- ・こども食堂という切り口で、新たな人材を発掘しようとした試みは評価できる。

4 取組効果の評価：目標等の達成状況

| 評価点 (配点 40 点) | A 委員 | B 委員 | C 委員 |
|------------------|------|------|------|
| | 2 5 | 2 5 | 3 5 |

主な意見等

- ・アンケートからは「やらされ感」を抱いている地域があることが推察されるので、なぜ地活協という仕組みが必要なのか、データなどを見せながら、原点に戻り説明する必要がある。
- ・新住民でも入ってきやすい活動として「防災」「福祉」「子ども」を打ち出したのは評価できる。活動参加者を、組織の担い手に育てるためには、既存の組織の民主化も必要ではないか。
- ・手堅い取り組みが多いが、高齢者のニーズは変化しており、既存の取り組みにはない新しい事業型の試みなどを検討すべき。

5 総合評価

(1) 総合評価Ⅰ

| 項目 | A委員 | B委員 | C委員 |
|----------------------------------|-----|-----|-----|
| (1) 地域課題等の把握・分析・整理 | B | B | A |
| (2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定 | C | B | A |
| (3) 区のマネジメントに合った取組 | B | B | B |

主な意見等

- ・(1) 防災や福祉など多くの人に関心があるテーマでのアプローチは有効だが、新しい人たちに地活協を協力してもらうには、組織の改革(民主化、組織力強化)を働きかける必要がある。
- ・(2) 昨年度からの進捗があまりみられない。
- ・(3) 活動の数で成果を測るのではなく(行事を増やすのではなく)地域の将来像を話し合い、それに向けた活動ができているかどうかを、住民と話し合う必要がある。

(2) 総合評価Ⅱ

| 項目 | A委員 | B委員 | C委員 |
|----------|-----|-----|-----|
| 総合評価(全体) | B | B | A |

主な意見等

- ・一部地域から出ている「やらされ感」については、受託者の努力(コミュニケーション能力の向上)はもちろんだが、区役所職員と連携して事務の軽減化を図り、なぜ地活協が必要かを行政からも説明する必要があるのではないかと。
- ・手堅い安定感のある実施状況であるが、新たな取り組みも必要。
- ・広報(SNS)が充実され、多様な情報をのせ、新たな人材にも結び付けているところは評価できる。

(評価基準)

- S：本市の求める水準を大幅に上回る効果が得られた
 A：本市の求める水準以上の効果が得られた
 B：おおむね本市の求める水準どおりの効果が得られた
 C：本市の求める水準の効果が得られていない